

校長室より ～「新・山吹の風」 No.16 R6.10.22 ～

阿武隈の山々が赤く染まり始めました。この時期の山の様子を表す季語があります。それは「山粧ふ」(やまよそおう)。秋の山々はまるで美しい衣をまとっているかのようです。大気は澄み渡り、空はどこまでも青く、山々が鮮やかな紅葉で覆われ、日本の秋の華やかさに気づかされますね。ちなみに春は「山笑ふ」、夏は「山滴る」、冬は「山眠る」と言います。

山粧ふけものの道もくれないに 檜 紀代



さて、先週の防災訓練、とても集中して取り組んでいましたね。令和6年は、元日に能登半島における大地震から始まった1年でした。その後の9月、同地は大雨の被害にも遭いました。ニュースを見るたびに胸が痛み、どうか一日も早く同地に暖かな陽が降り注ぎますように、とひたすら祈る日々でした。

「安全」「安心」というものは「当たり前にあるもの」ではなく、「一人ひとりが力を尽くして維持するもの」です。それでも避けられない災禍に対しては「支え合うこと」「心を寄せること」「何をすべきか自分でしっかり考えること」を行って欲しいと思います。

分け合ひて満たさるるもの秋深し 幸恵

